

広報

かみさわ

NO. 447

平成7年11月10日



かど
きた
笑う門には福来る

川中体育館が寄席に変身



〒948-01 新潟県中魚沼郡川西町大字水口沢12番地 TEL 0257-68-3111 FAX 0257-68-3828
発行 町長 南雲春雄 編集 総務課文書広報係 印刷 白南風社 (毎月10日発行)

人口の動き

—11月1日現在—

男	4,298 (+3)
女	4,380 (+2)
計	8,678 (+5)
世帯数	2,254 (0)

()は前月比較

財政事情の公表

町の財政状況を、皆さんから理解していただくために、毎年五月と十一月に財政事情の公表を行います。今回は、平成七年度上半期の予算執行状況や基金（預金）、町債（借金）の状況について紹介します。

をお知らせします

平成七年度一般会計予算は、当初五十六億一千二百万円でした。これに、平成六年度からの繰越事業と四回の補正予算により、九月末現在の予算は、六十二億六千三百十四万八千円となっています。

収入済額は三十億六千三百八万四千円で、予算対比四十八・九パーセントの執行率となっており、前年よりも五・七ポイント上回っています。

支出済額は十七億七千五百三十三万七千円で、執行率二十八・三パーセント、前年比では〇・二・ボイントの減となっています。

今年上半期の特徴は、七月十一日からの豪雨災害を復旧するため、二度にわたり予算補正したことで、その額は三億三千四百五十六千円にもなっています。災害当初は崩土処理が主でしたが、九月からは国県補助による本格的な復旧工事も始まりました。

また、五月には待望の千手温泉

がオープン。庚塚野球場大規模改

造工事（写真）やナカガシヨート

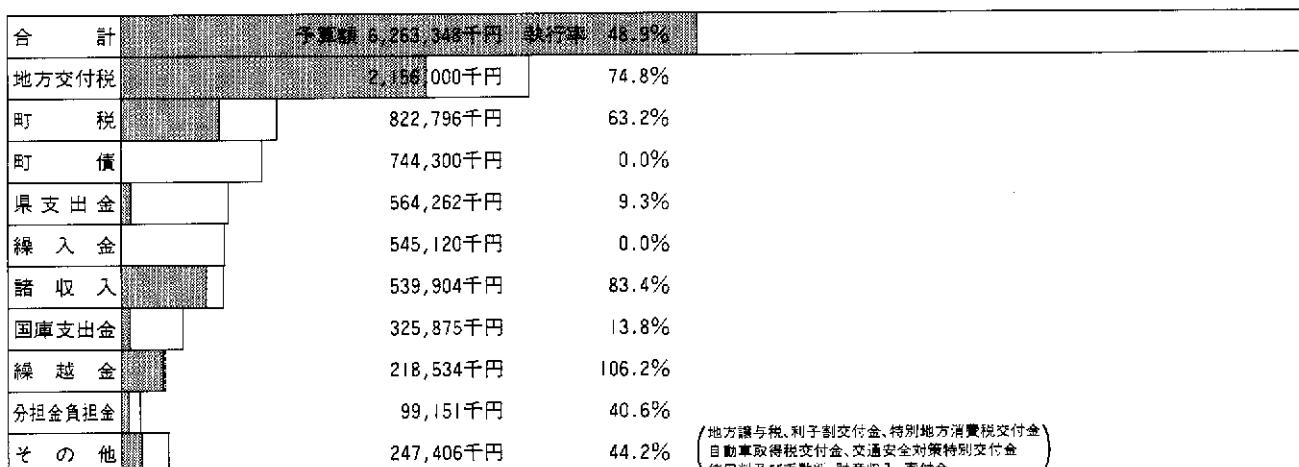
ゴルフ場造成工事も順調に進んでいます。

一般会計

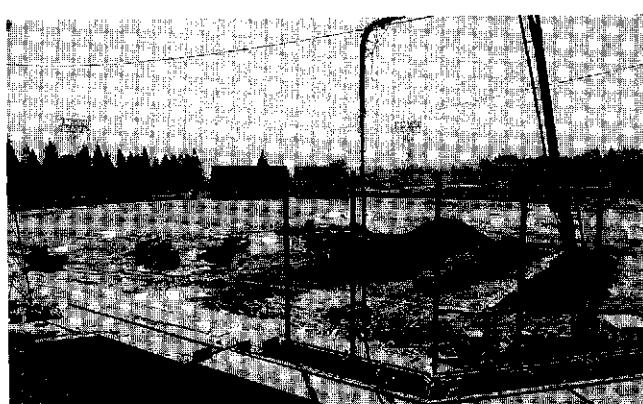
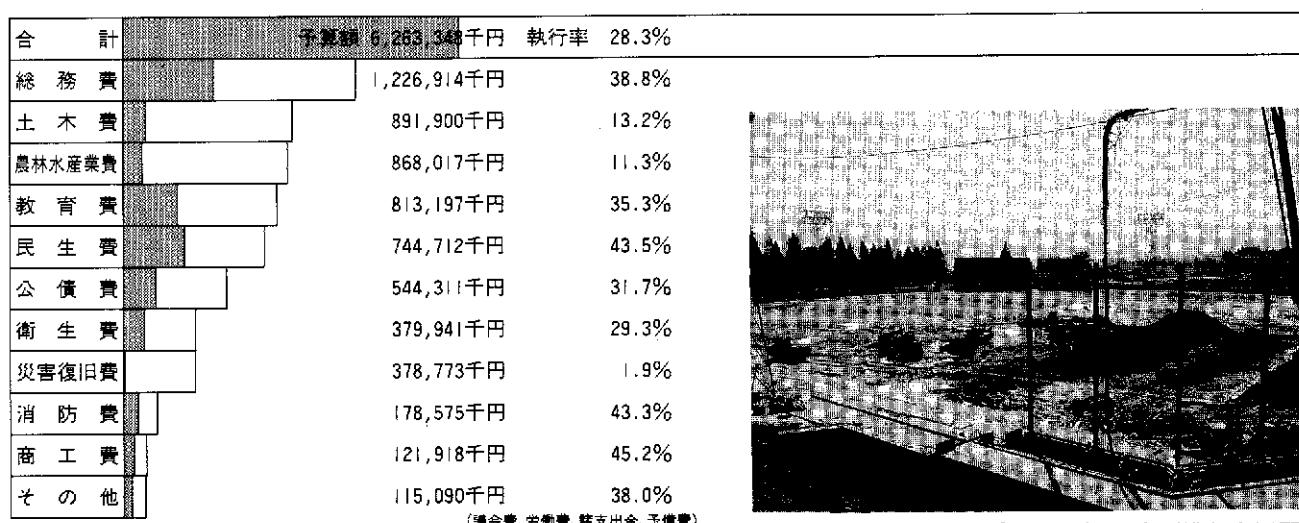
一般会計

凡例 歳入済 金額は予算額。%は予算に対して収入・支出済額の割合

歳入 5 10 15 20 25 30 35 40 45 50 55 60 65 億円



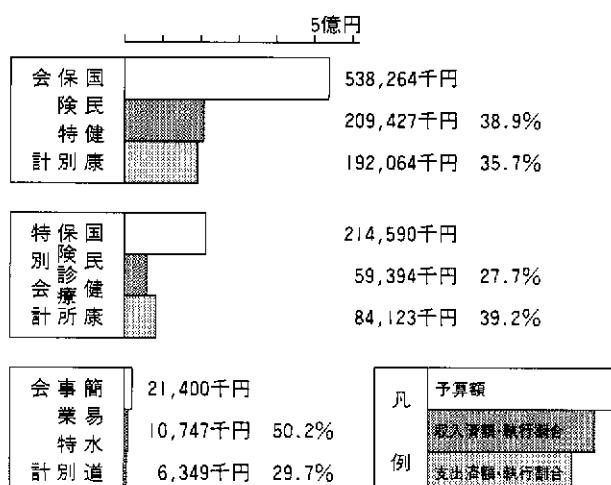
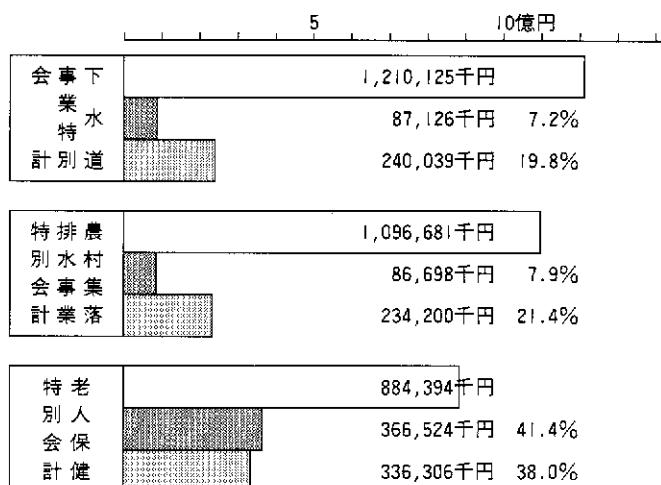
歳出 5 10 15 20 25 30 35 40 45 50 55 60 65 億円



平成8年6月のオープンをめざし工事が進む庚塚野球場

平成7年9月30日現在の予算の執行状況

特別会計



基金(預金)

区 分		7年9月末現在高
一般会計	土地開発基金	132,968
	財政調整基金	494,633
	減債基金	161,153
	藤巻褒賞基金	2,435
	豪雪対策基金	108,155
	克雪住宅資金貸付基金	21,183
	文化会館建設基金	385,462
	まちおこし基金	481,915
	地域福祉基金	173,889
会計	ふるさと・水と土保全基金	7,000
	スキ一場建設基金	10,000
国民年金印紙購買基金		24,081
会計	国民健康保険給付準備基金	183,793
合 計		2,186,667

特別会計

これら事業は、国・県・市・町の協調努力により、大幅に上回る進捗となっています。下水道事業は、千手地区を対象としていますが、本年五月には一部供用を開始しました。今後は、高原田方面に向けて工事の進捗が図られます。

農業集落排水事業については、三箇地区の工事が最盛期となっています。おり、仙田地区は中仙田の川東地域を残すのみとなりました。今後は、新町新田、元町地区の計画のは、下水関係事業は非常に巨額な費推進が図られます。

町では将来の財政需要に備え、
目的別に十三の基金を設置してい
ます。

一般会計予算規模程度で推移しており、増加傾向をたどっています。町債は、道路、下水道、福祉、教育、観光施設等を整備するところから、その費用は、現在の人がかりでなく将来の人も負担（町債の償還）すべきものです。

しかし、町債が巨額になると将来的の財政の硬直化を招く原因になるため、できるだけ国の支援のある優良債を選ぶ等、適切な町債管理に努めています。

町債（借金）

町債の九月末現在での合計額は、五十九億一千七百一萬七千円となつてゐる。町債残高は毎年三

建設等の財源として充てました。今後も下水関係事業等により巨額な財政需要が生じているため、減少傾向の見込みです。

用が掛かりますが、その建設費の
才原は、皆さういふの分担金の也、

建設等の財源として充てました。

町債(借金)

区 分	7年9月末現在高
一般会計	3,768,625
国民健康保険診療所特別会計	453,629
簡易水道事業特別会計	73,847
農業集落排水事業特別会計	908,545
下水道事業特別会計	786,000
合 計	5,917,017

地域のこれからは自ら考へる

平成七年度と八年度の二か年、仙田地域が、県の農村アメニティモデル育成支援事業の採択を受け、地域を挙げて様々な取り組みをしています。

この事業は、快適で豊かさを実感できる美しい農村づくりのため、集落の人たちが自ら計画を立て、自ら事業を行うことに対して、県や町がいろいろな角度から支援するもので、仙田地域は十集落全体でこの事業に取り組んでいます。

専門家を迎えての講演会や、白分たちの地域を再発見するための

仙田ウォッキング、先進地の視察や、その結果を計画に活かすための会議を通して、いくつかの事業計画が挙がっています。

アドバイザー（左から2人目・尾崎真理さん）と仙田ウォッキング



で写した写真で綴るカレンダーづくりや、地域全体を統一イメージでアピールする集落案内看板づくりなどがそれで、三十一四十歳代



アドバイザー筒井義富さん（写真正面右側）
を囲んでの「仙田 21 委員会」

で構成される「仙田 21 委員会」の皆さんを中心には準備が進められています。

その中で、仙田の皆さんがあなで親しめるような「シンボルマーク」をつくるいろいろなところに表示しようという計画があり、ただ今、そのマークを募集中です。

仙田地域の皆さんに限らず、「こんなシンボルマークがいいな」というアイディアがありましたら、A4版用紙に一点記入し、十二月二十日までに左記までお寄せください。

◆ 提出及び問い合わせ先

仙田地区開発振興協議会事務局
(赤谷・川西町克雪管理センター)

内 ● 六九一-二〇〇二 または、
開発課振興係 (☎ 六八一-三二一
一内線三二二)

読者からのお便り

室島にお住いの半田美好さんから、「近所の川崎長蔵さんは、今年米寿を迎えるましたが、毎年元気に農作業をされており、山田の大半は自分でコンバインを運転して刈っている。こんな元気な高齢者がいることを紹介して、ほかの高齢者の皆さんのがんばれ」との便りをいただきました。

さっそく川崎さんをお尋ねへ、お話しをうかがいました。

川崎長蔵さんは、明治四十一年生まれの八十七歳。部屋にはコンバインに乗った雄姿が飾られており、コンバイン操作の動機をうかがつたところ、「最初は息子（作

行革については本紙七月号でお知らせしましたとおり、役場内に設置された「行政改革推進本部」を中心に、全職員から改革の提言を取りまとめる等して大綱草案の作成を進めてまいりました。

今般、「川西町行政改革大綱」策定に当たり、次の方々に第三次川西町臨時行財政調査会の委員を嘱託し、この大綱が広く住民の皆さんの意向を反映したものとなるようご検討いただくことになりました。なお策定された大綱の概要

は、後日本紙に掲載する予定です。

（順不同・敬称略）

第三次川西町臨時行財政調査会

戸田 哲次（仁田・64歳）

清水 進（朝日町・47歳）

小熊与子雄（上野・71歳）

南雲 直秀（中仙田・59歳）

藏品 順子（霜条・54歳）

高津富士男（寺ヶ崎・47歳）

馬場 繁信（朝日町・46歳）

内山 ミサ（新町新田・44歳）

戸田臨時行財政調査会長（写真右）
に諸問書を手渡す南雲町長



無理をしないよう事故に遭わないようにお過しいただきたいもの

です。

さん

「昔に比べれば楽になつた」と、コンバインの操作を楽しむ川崎

行政改革大綱を調査会に諮問

農地についてのご相談は農業委員会へ

農地の賃借には2通りの方法があります
作れる人は借りて経営の規模拡大!
作れない人は貸して農地の有効利用!

◆農地法

農地の貸借には、貸主が借主に農地を耕作させ、借主から小作料をもらうことを内容とした契約の賃貸借と、貸主が借主に農地を無償で耕作させる契約の使用貸借があり、いずれも農業委員会または知事の許可が必要です。

許可を受けた賃貸借については、権原ある小作地と認められ、第3者への対抗力等農地法で保護されますが、許可を受けない賃貸借については無権原の小作地（ヤミ小作地）となり、農地法の保護が受けられませんので必ず許可を受けてください。

◆農業経営基盤強化促進法

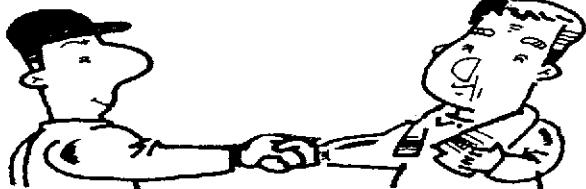
町（農業委員会）が、農地の貸し手借り手の間を調整して、権利の設定・移転計画をまとめた「農用地利用集積計画」を作成し、農業委員会の決定を経て公告することにより、安心して農地の貸借、売買を行うことができます。

約束の期限がくれば離作料を支払うことなく農地を確実に返してもらえます。

この制度をわかりやすくしたのが下の図です。

— 借りたい人 —

- 農地を借りて規模拡大したい。
- 作付地の集団化をしたい。
- 機械や設備を効率よく使いたい。



農地流動化推進員・農業委員会事務局まで申し出ください

申し出

農用地利用集積計画の作成

農業委員会の決定

町長の公告

権利の設定・移転

期限がくれば返還

継続して貸すこともできます

農家のみなさんへ
農家の相談・農地の貸し借りや
売買（農地の流動化）を進めます

農地流動化推進員（農業委員）

農地の賃貸借、売買及び転用等の申請書の締切日は毎月15日です。
(12月は10日です。)

食推が厚生大臣表彰を受賞

十月六日、厚生省講堂において

森井厚生大臣から川西町食生活改善推進委員協議会（南雲ハル工長）に表彰状が贈られました。

同会は、昭和四十一年に栄養教室修了者二十四人で「やまな会」を結成して以来、食生活の面からの成人病予防を目指し、地域に密着した活動を展開してきました。私たちの食生活もこの約三十年間に大きく変わっており、同会の活動分野や範囲も拡がっており

ますが、現在三十六人の会員は、秋の地区伝達講習会に向けて積極的な取り組みを行っています。

十月二十七日、なかまの家（小林重俊施設長・写真左）を全透魚沼支部（島田福男支部長・写真右）が訪れ、「今後の活動に役立てもらいたいと」切手八万円分を贈りました。

同支部（二市三郡所属）は、二年前から書き損じはがきを集めて切手を贈る運動に取り組んでおり、これまで津南町教育委員会や小千谷市社会福祉協議会に贈つてきました。



工 そ お笑いを一席

十月二十一日、町内二つの会場で寄席が開場しました。

一つは野口落語会。地域の親睦を深めようと野口七日会（村越浩明代表・会員十五人）が計画し、野口集落センターに約五十人が集りました。



紙切り 林家小正樂さん

落語 金原亭馬治さん

二つ目は上野寄席楽集。地域の人気が気軽に落語を楽しめるよう人と上野青年会（富井陽介代表・会員十五人）が計画したもので、A新潟川西上野支所特設ホールに約百二十人が詰め掛けました。



なかまの家に 切手を贈る

した。三年目の今年は約千六百枚を集め、八十円切手千枚に換えて、小林施設長に手渡しました。

川西にいがたライオンズクラブが結成十五周年を記念し標識を贈る。

【駅伝】渡貫克典（新町新田）

片桐英恭（小白倉）

★優秀競技者大章

相崎幸子（田中町・卓球）

★優秀競技者章

丸山貴行（根深・スキー）

神田暁美（山野田・陸上）

村越ルミ（野口・卓球）

★奨励者章

柳昌光（東善寺）

小林優（中仙田）

【陸上】 清水利光（上野）

【卓球】 村越祐介（野口）

池竹祐子（原田）

【相撲】 金子実寛（岩瀬）

町体協 優秀競技者らを表彰

十月二十一日、総合センターで

町体協の第三回交流会兼第十五回体育功労者等表彰式が行われました。

受賞された方は次の皆さんです。（敬称略）

【体操】若山直樹（新町新田）

【水泳】山本章人（仁田）

【テニス】西野有紀（十日町市）

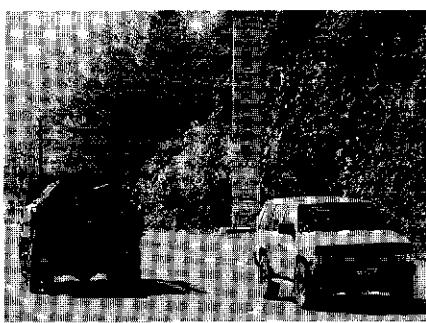
山田智恵子（同）

【スキー】井上吉典（神社町）

片桐健太（発電所通西）



安全を願って



信濃川と三領の昔

岩瀬 金子 幸作

流れは尽きず洋々と

取り入れが終わり、晚秋の色も

濃くなつたある夜、南雲隆三元上

野地区公民館長に「三領の昔」を

語つてもらつた。たくみな話術と貴重なお話に過ぎた日を思い、先人たちのしたたかな生きさまに胸をうたれた。以下は南雲元館長のお話をまとめたものである。

長安寺の過去帳に「慶安二年（一六四九）正月、三領村治左衛門女云々」の記載があることを考えると、三領の草創は徳川の初期であったと思われる。万治二年（一六五九）の家数は一戸だったがやがて二十三戸になり、現代は全盛期に三十二戸を数えたこともある。しかし「家数が三十戸を超える」というジンクスがあり、そのためか、このところ毎年三十戸で平和な生活が続いている。

昭和戦前の、千手に発電所ができたまでの信濃川は満々と水を湛えて、古い新潟県民歌の文句のとおり「流れは尽きず日に夜に」、妻女の盆地を洋々と流れていた。川幅は雄に百メートルを超えて、水深は三間の竿を指しても河床に届

かず、浅い所でも人の背が立たず、流れは遅いように見えても時速十五キロメートルはあつた。

三領と木落の渡し

三領の鼻先は小見川が信濃川に合流する地点に、川辺と下条の上新田をつなぐ渡船場があつた。入口に「営業時間は日の出から日没まで」と掲示されていたが、社会の推進につれ船頭衆の待遇も改善され「朝七時から夕方六時まで」となり、官公庁並みの「午前八時半から午後五時」に改められ、以後は頼めば時間外勤務で船を出してくれるようになつた。

榮橋のあたりに、木落から下条の桑原へ渡る渡船場があつたが、民営のために利用者はそのつど舟賃を払わねばならなかつた。これ

三領のガス取り

三領にはボイ（薪）を切る山が無くて、食物の煮込みや風呂の湯沸かしを始め、冬はとくに暖房の確保に苦労した。こうした悩みをまことにがんばりがけでガスを拾い集めた。そのガスを山に積んで、三領の衆の足元をみて「一山いくら」の高い値で売りつけた。

小根岸の衆は暮らしが豊かで舟を何艘も持つており、大洪水があるとすぐに舟を出して、濁流にも燃やしたが、とにかく焼き物の確保には容易でない思いをした。

小根岸の衆は暮らしが豊かで舟を何艘も持つており、大洪水があるとすぐに舟を出して、濁流にも燃やしたが、とにかく焼き物の確保には容易でない思いをした。



三領の渡し・昭和三十年
ふるさとの百年（金子幸作解説
新潟日報事業社刊）転載

舟呼び

木落の和久井精一さん宅上手の信濃川べりに、何人の船頭衆が二艘の舟を繋いで待機しており、

流域住民の急な要請にいつでも応えるしくみになつていて。今なら電話一本で済む用事なのに、当時の夜間はどこで渡し舟も休みで、急用のできた人は船頭に頼んで特別に舟を出してもらつた。

不測の事態がおきて舟を利用するるのは真夜中の場合が多く、万物の寝静まつた深夜に下条や中条の人々が川西の船頭を呼び起こした。大川の水音を越えて「オー、オーバー、オーバー」と重低音で呼ぶ声が何ともいえず切な氣で、悲しそうで、不気味で、重苦しく胸も冴えて朝までまんじりとしないにひびいた。「急病人が出たのか、それともだれかが死んで告げの人か」などと考へると、眠い目も心も冴えて朝までまんじりとしない夜があった。舟を出してもらつた人は船頭に感謝し、なにがしかの金を包んで勞をねぎらつた。

三領にはボイ（薪）を切る山が無くて、食物の煮込みや風呂の湯沸かしを始め、冬はとくに暖房の確保に苦労した。こうした悩みをまことにがんばりがけでガスを拾い集めた。そのガスを山に積んで、三領の衆の足元をみて「一山いくら」の高い値で売りつけた。

小根岸の衆は暮らしが豊かで舟を何艘も持つており、大洪水があるとすぐに舟を出して、濁流にも燃やしたが、とにかく焼き物の確保には容易でない思いをした。

うひとつ、次のいわくがある。小根岸に三領出身の高橋友蔵という美声の持主がいた。盆踊りは名代の音頭取りで、「大の阪」は口を持ち、ある者は竹竿の先に鎌をかけて川岸に立ち、これはとめざす流木をひっかけて拾い上げるのに夢中だつた。「ホーラ、でつかいのが来たゾ」とか、「この木は俺が引き寄せたんだ」とか、「あの根っこはこっちでもらう」と各自が大声出して奪い合つた。

あるとき、燃料に苦労しない仙田のオトトが通りかかり、大声張り上げて流木を奪い合う有様を見た。「ガス取り声だ」と笑つたところ、「ガス取り声だ」といつしか近在に広まつて「三領のガス取り声」

と評されるようになつた。ガスとり声になつて近在に広まつたと評価した。

それがいつしか、「三領のガス取り声」になつて近在に広まつたと評価した。

それがいつしか、「三領のガス取り声」になつて近在

餃子

◆ 材 料

ひき肉
に ら
しいたけ

卵 餃子の皮

◆ 調味料

長ネギ	化学調味料
塩	コショウ
砂糖	小麦粉

◆ 作り方

①ひき肉、にら、しいたけ、卵に調味料を入れて混ぜる。

②餃子の皮に①を適量入れて包み込む。



「中国料理の味は日本料理よりおいしいですが、日本料理の色は中国料理よりきれいです」と話してくれました。餃子はいろいろな料理を使ったり、親子でワイワイやりながら作ることもできます。皆さんもオリジナル餃子にチャレンジしていかがですか。

死に至ります。もし自分で思い当たる症状が出てきたら、早目に節酒、禁酒をしてください。自分だけでは難しいものです。家族や周囲の人の協力も大切です。「少しきらい…」が命とりになることを心得ておきましょう。家には酒を置かないくらいの態度が必要ですし、医師に相談することも大切で



メニューに加えたい品

12

五十嵐ミネ	87	(正義)	野口
江口サヨ	88	(則雄)	小白倉
田村ハツエ	91	(賢太郎)	上野
たかさう	二	山田満	に
室井達徳		栃木県から	
滝沢実花		栄町	
小幡一久		木落	
高野君子		長岡市から	
星名克之		新町新田	
滝沢加代子		津南町から	
中島和浩		下平新田	
庭野あゆみ		十日町市から	
渡部稔			
北堀文子			
野口から			

「酒は百薬の長」と言われます
が、酒で失敗した人、酔った人に
迷惑をかけられた人が後を断ちま
せん。この中魚沼地域は、他と比
べアルコール依存症の人が多いと
の統計もでています。

程良い飲み方ができれば問題は
起きないのですが、その飲酒量の
コントロールがきくなるのが
アルコール依存症です。この病気
は一日にして起こるものではなく、
おおよそ毎日一合の飲酒で三十年、
二合で二十年、三合では十年で依
存症になると言われています。初
めは前夜のことが思い出せなかっ
たり、飲み出したら抑制が利かな
くなることから始まり、そのうち
いきたいものです。

話は変わりますが、町には精神
障害者の家族の集り「家族会」が
あります。精神障害者の福祉の向
上と社会復帰の促進を目指し、力
を合わせて活動しています。でも、
会員数はまだまだ少ないので現状
です。精神障害者を家族にもつて
いる方は積極的に参加してくださ
い。精神障害者に対しては、これ
までも偏見がありましたが、百人
に一人は精神障害者と言われるほ
ど身近な存在ですし、治療をしつ
かり受けければ社会復帰もできるの
です。家族だけでなく、地域の人
達が協力して精神障害者を支えて

「酒は百薬の長」と言われます

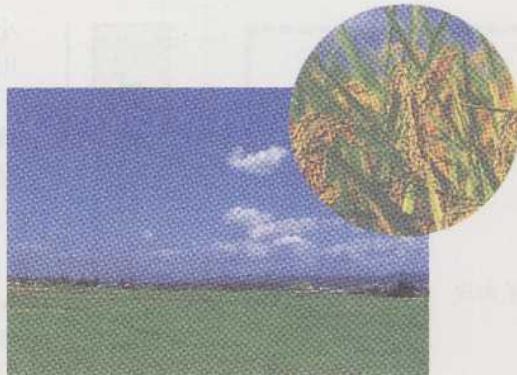
す

一、ご利用ください観光年賀はがき

町では、今年も観光宣伝事業の一環として、町にちなんだ物や名所を年賀状に刷り込みます。年賀状は、町内の郵便局と販売所で購入できますのでご利用ください。（ハガキに刷り込む大きさは、おおむね5・5cm×4・5cmで、この写真は実寸とは異なります）



究極の味わい川西のコシヒカリ



栄橋からみた冬の信濃川 (木落)



節黒城跡公園と木のぬくもりがうれしいパンガロー (上野)



▼ 1年生 南雲 茜さん
◆ 2年生 田中美奈子さん



► 1年生 羽鳥愛子さん (左)
村山奈央さん (右)



ちいさな展覧会



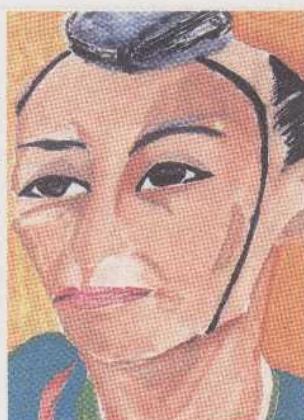
▲ 3年生 春日絵美さん (左)・数藤千織さん (右)



► 2年生 大浦正美さん



► 1年生 星名壮大さん



► 1年生 丸山健太郎さん



▼ 2年生 井上冴子さん・大浦正美さん合作

(12月号は千手小学校です)



▲ 1年生 丸山緩恵さん